

プロムナード木更津

中部大学 - Kisarazu Lab 2017 -

インタビュー調査

現状

- ・海浜公園は人が少ない
- ・廃れる西側、栄える東側
- ・**アウトレット、イオンが人気**
- ・子どもの遊び場がない
- ・子連れは多い
- ・車社会である
- ・お祭りの時は賑わう

要望

- ・子どもの遊び場
- ・一年中楽しめる施設
- ・**イオンにないもの**
- ・イルミネーション
- ・フォトジェニック
- ・海辺のレストラン
- ・スポーツ施設
- ・フェス会場

自分たちの目標

- ・ **地元の人をターゲットに**
- ・ **駅から人を呼び込む**
- ・ 優れたウォーターフロントへ
- ・ **アクティブな印象のもの**
- ・ 人気の持続するもの
- ・ **橋を活かせる**
- ・ 小規模な水族館
- ・ キッチンハウス

提案

すでにイオンやアウトレットなどの大型施設はあるし ...

大型施設ではない形にしよう！

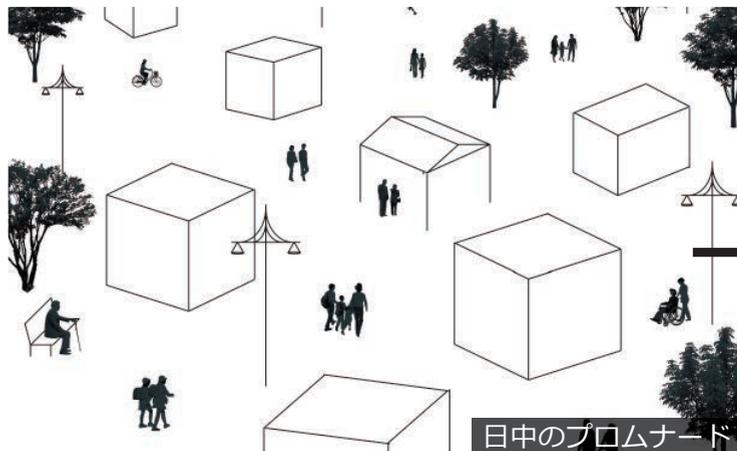
木更津市のマスタープランを組み込み、
周辺環境を活かしたい。
小型施設を点在させるのはどうかな～ ...

そうだ！**プロムナード**だ！！

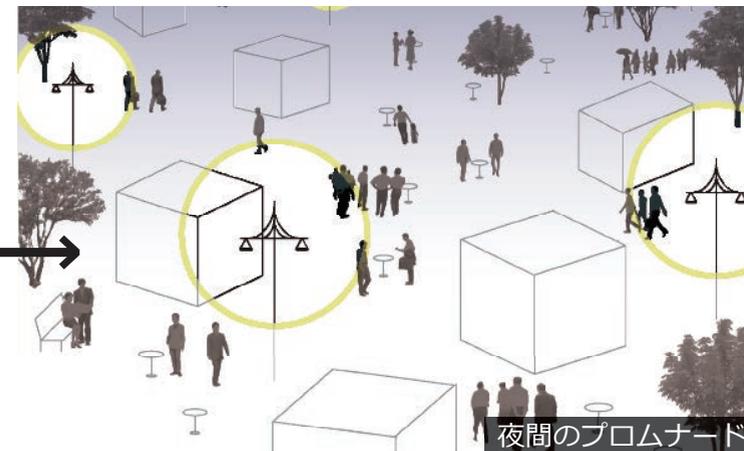
4つの機能性

● 時間帯に合わせて変化する

お店を出したり、机を並べたり、多様な使い方ができる広場であれば、使い方は限定されない。



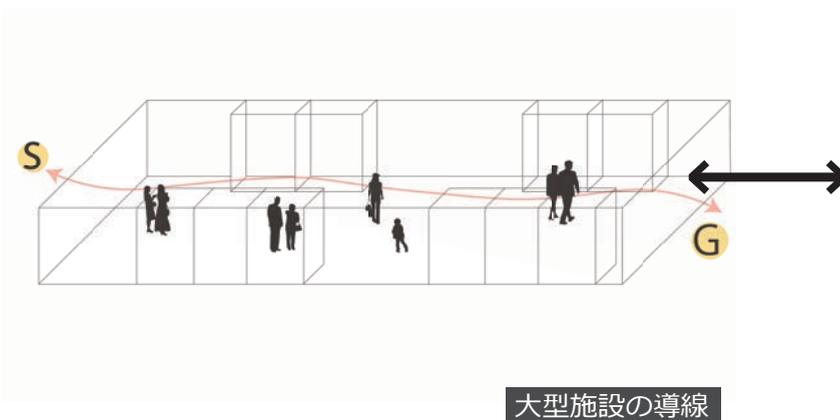
日中のプロムナード



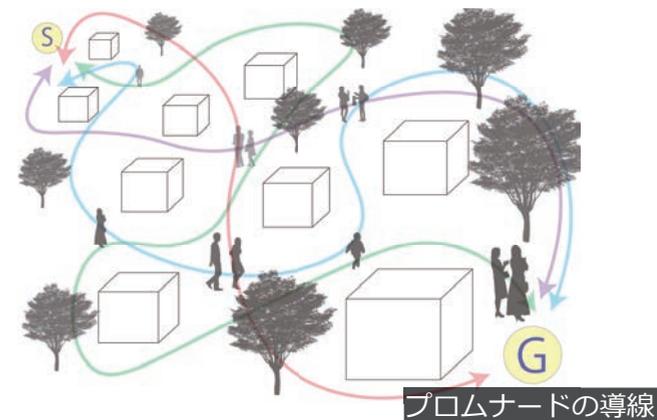
夜間のプロムナード

● 十人十色の道になる

大型施設のように、ルートが決まっているものではなく、建築が歩き方を決めないような、訪れる人によって無数の歩き方使い方ができるプロムナードを計画できる。



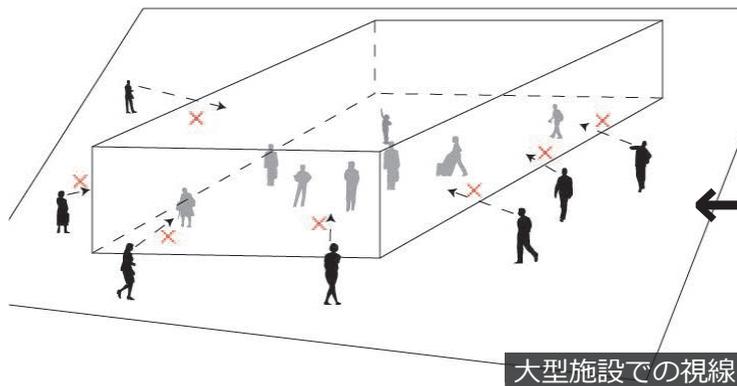
大型施設の導線



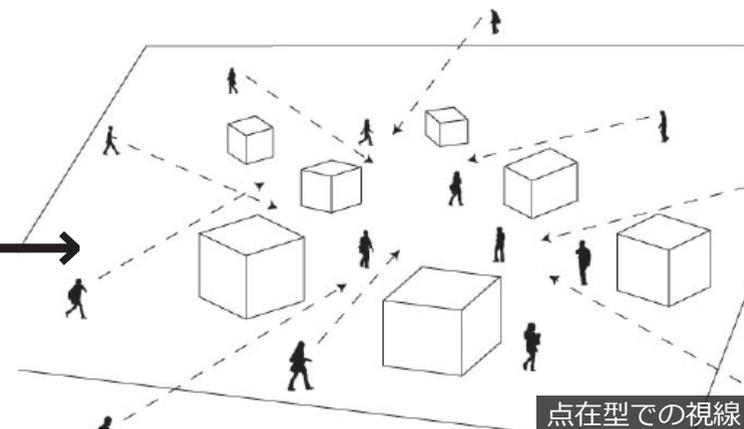
プロムナードの導線

● 自然に活動を感じ取れる

大型施設と異なり、敷地全体をオープンスペースとすれば、周辺環境から賑わいや活動を可視化できる。



大型施設での視線



点在型での視線

● 季節ごとのイベント

季節ごとのイベントを、利用する方々で提案できる場を設けることで、素晴らしい口ケーションを有効活用できる。普段景色の一部となっている中の島大橋から眺める景色も、より魅力的にできる。



プロムナード内の具体案

展望台

プロムナードでの数ある楽しみ方を提案する場であり、楽しむための必要な備品を収納できる。また、この計画を引き立たせるためのシンボリック存在になり得る。



回遊性の誘発

敷地内にあえて駐車場を設けず、徒歩もしくはレンタサイクルによってアクセスしてもらうことで、駅から港までの間にある商店街の活性化につなげることができる。



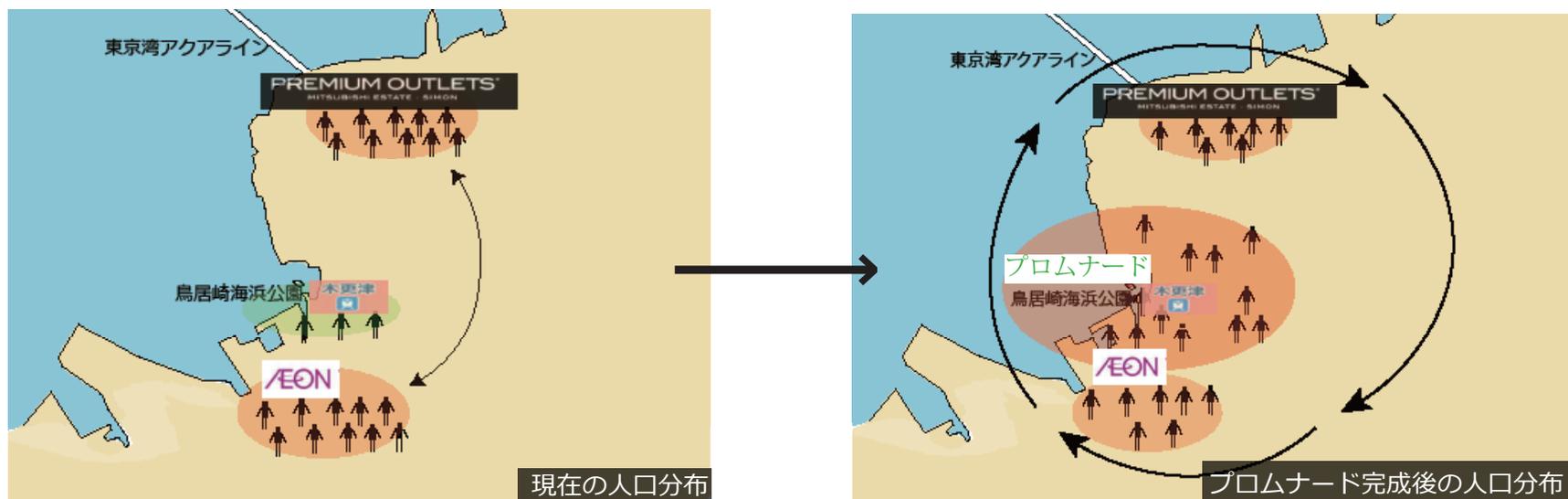
3つの展望

● マスタープランが具体化する

木更津市では、駅周辺から港周辺エリアにかけてのマスタープランが存在し、今回の敷地である鳥居崎海浜公園も含まれている。課題敷地をプロムナードにすることで、将来のマスタープランのウォーターフロント施設へのスムーズな移行が可能だと考えられる。また、プロムナードというベースを事前に作ることで、自然に徒歩による移動を誘発することができる。

● 相乗効果

徒歩による回遊性を誘発することで、駅を中心とした歩行者の行動範囲が広がる。その結果、効果の薄れていた「木更津うまいもんマップ」の利用者が増えることで、駅周辺の賑わいを再起させる。



● 計画の変化が楽しめる

使う人によってプロムナードの姿は変化していき、来るたびにその変化を楽しむことができる。

5年後、10年後に敷地全体としての雰囲気の木更津市民によってオリジナルの進化を遂げてゆき、木更津市民による、木更津市民のための、木更津にしかないプロムナードになっていく。